

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
17	西綾瀬	地域と繋がりが続けるために私たちが できること「今は」 「何とか」頑張れて いるけれど…	①引きこもり・孤立 ②介護予防 ③障がい・精神障が い者同居 ④老老介護	・引きこもりがちで ある ・悩みが一人で解 決できない ・筋力低下しても 通える場所を知らない			・包括で訪問し、本人への 外出促しを娘に協力して もらう ・自宅訪問し、悩みを吐露 してもらう ・近隣の通いの場に誘う	行動範囲が縮小しても自力 で通える場所が不足してい る		社会資源を周知する場所や 機会を設ける	・通いの場所を増やす ・社会資源を周知する場所 や機会を設ける ・社会資源の冊子を作成す る ・地域ケア会議で出た意見 を他のネットワークでも共 有する
18	西新井	集合住宅での共生 を考える ～認知症本人の声 と近隣住民の声の 妥当点～	①認知症 ②近隣トラブル	・身体状況が改善 され動けるよう になった分、も の忘れの行動 (①自宅を間違 え他人宅に侵入 してしまう。② 他人の置き配荷 物を自宅に持ち 帰ってしまう) が目立つようになり、近隣住民 から心配の声が 上がっている。 ・本人の地域で暮 らし続けたい思 いと、住民の迷惑行為に対する 思いの妥協点を 探る。		・本人が認知症を受け入 れてない。限界点を探り ながら、暮らし続けること と施設の入所との双方を 本人の意思を確認しながら 同時進行で検討を行う。 ・本人が何故他人の荷物を 持って行ってしまうのかを 探る。 ・本人が自分宅をわかるよ うに玄関ドアや玄関わきの 窓に目印を付けている。 ・隣人宅に宅配BOXの設 置をお願いし設置済である。	・本人が認知症を受け入 れてない。限界点を探り ながら、暮らし続けること と施設の入所との双方を 本人の意思を確認しながら 同時進行で検討を行う。 ・本人が何故他人の荷物を 持って行ってしまうのかを 探る。 ・本人が自分宅をわかるよ うに玄関ドアや玄関わきの 窓に目印を付けている。 ・隣人宅に宅配BOXの設 置をお願いし設置済である。	認知症当事者が集合住宅に て共生するために、住民と認 知症当事者双方にとって住 みやすい住環境の工夫や、 住民を含めた関連機関の連 携の在り方を考える。		集会所を活用した居場所づ くり支援	
		チームで支える、身 寄りなし(独居)高 齢者の金銭管理	①金銭管理 ②認知症 ③サービス拒否	金銭管理が必要 な状況だが、本人 が支援を必要とし ていない。	本人が困ったタイミングを見 逃さないようにする。	地域住民や金融機関が気づ いた情報を共有し、チームで 対応する。	・本人が困ったタイミング を見逃さないようにする ・以前関わっていた義妹の 対応を確認し引き継ぐ ・地域住民や金融機関が 気づいた情報を共有し、 チームで対応する。	身寄りがない高齢者の金銭 管理を誰が行うのか、役割 分担が難しい。	国で検討中の、身寄りなし 高齢者支援のための新制度 について情報収集する。	・ホウカツ・ケアマネ・民生 委員などとチームで話し 合いながら金銭管理をサ ポートしていく ・各金融機関で実施されて いる終活サービスなどの 活用も勧めていく ・国で検討中の、身寄りなし 高齢者支援のための新制 度について情報収集する	・ホウカツ・ケアマネ・民生 委員などとチームで話し 合いながら金銭管理をサ ポートしていく ・各金融機関で実施されて いる終活サービスなどの 活用も勧めていく ・国で検討中の、身寄りなし 高齢者支援のための新制 度について情報収集する
		増加する孤立死に 地域がどのように 対策していけるか ～見守りネットワ ークの構築～	①ひきこもり・孤立					・自治会が包括の役割や 機能について理解できて いない(何かあるとJKKへ 相談し、JKKどまりになっ ている) ・住民間の見守り体制の不 構築状態		・自治会役員等の地域住民 のキーパーソンとホウカ ツ、JKKにて定期的に相 談会を設定していく ・集会所を活用した居場所 づくり支援	・自治会役員等の地域住民 のキーパーソンとホウカ ツ、JKKにて定期的に相 談会を設定していく ・集会所を活用した居場所 づくり支援

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
19	西新井本町	増加する孤立死に地域がどのように対策していけるか～見守りネットワークの構築～	①ひきこもり・孤立 ②サービス拒否 ③認知症 ④介護予防					・自治会がホウカツの役割を理解できていない。 ・JKKと連携が必要。 ・住民同士の関係が希薄である ・通いの場立ち上げの補助について		・自治会のキーパーソンと包括、JKKの情報交換会を開始する。 ・集会所を活用した居場所づくり立ち上げ支援として、気軽に集まれる会をたちあげる。9月21日からの交通安全週間の活動の場で住民からも意見を募る。 ・どのような補助が活用できるか確認し、利用方法を共有する。	・自治会のキーパーソンと包括、JKKの情報交換会を開始する。 ・集会所を活用した居場所づくり立ち上げ支援として、気軽に集まれる会をたちあげる。9月21日からの交通安全週間の活動の場で住民からも意見を募る。 ・どのような補助が活用できるか確認し、利用方法を共有する。
		増加する孤立死に地域がどのように対策していけるか～見守りネットワークの構築～	①ひきこもり・孤立 ②サービス拒否 ③認知症 ④介護予防	個人情報の壁があり地域住民が心配な住民支援が必要		・自治会役員とJKK、ホウカツによる情報交換の進め方と役割の確認を行う。 ・地域ケア会議開催後に、第一回の情報交換の会議を実施する。また、民生委員の参加を得ることとなった。	・自治会役員とJKK、ホウカツによる情報交換の進め方と役割の確認を行う。 ・地域ケア会議開催後に、第一回の情報交換の会議を実施する。また、民生委員の参加を得ることとなった。	孤立している高齢者を早期に発見、適切に介入するためにも地域の見守り体制を強化、具体的方法を探る。		・まずは地域に通いの場を創出したいと考え具体的な役割を検討。 ・誰でも気軽に参加、顔を出せる場を作る。	・まずは地域に通いの場を創出したいと考え具体的な役割を検討。 ・誰でも気軽に参加、顔を出せる場を作る。
		問題行動のある認知症高齢者の地域生活における見守り方法～本人の権利を守り、適切な見守りネットワークを構築する～	①認知症 ②近隣トラブル	本人の生活状況、医療介護サービスの有無が判らず住民も関わり方がわからない		地域ケア会議を開催したことで個別ケースの相談先が明確になった。民生委員の見守りが活用できること等地域資源の活用に繋げる。		自治会や地域住民が支援に困った時や、本人達とどのように関われば良いかわからない場合の相談先がわからない。			・まずはホウカツに相談することを提案。 ・本人に必要な支援につながるよう働きかける。 ・JKKにおいても家族と繋がっていたり、連絡先がわかれば相談することはできる。
		地域との関わりがない障がいのある娘と二人暮らしの母娘の見守り支援の構築	①認知症 ②ひきこもり・孤立 ③精神疾患（疑念） ④金銭管理 ⑤障がい・精神障がい者同居 ⑥その他（関係者・機関の役割理解、連携）	本人との関係の構築が難しく支援につなげることができていない	本人の困り事は同居の娘の障がい年金が受給が滞っている事であるため、娘の受診支援を糸口として本人とも関わり、関係構築に繋げていく。		本人の困り事は同居の娘の障がい年金が受給が滞っている事であるため、娘の受診支援を糸口として本人とも関わり、関係構築に繋げていく。	本人が他者からの支援や地域とのつながりを拒否している場合の支援がわからない。	・自治会とホウカツとの連携体制は構築されている。本人が地域とのつながりを求めている場合でも、自宅の修繕等ささいなことからつながりを持つことは可能である。 ・江北保健センターとホウカツで自宅を訪問し、状況把握を行う。	・自治会とホウカツとの連携体制は構築されている。本人が地域とのつながりを求めている場合でも、自宅の修繕等ささいなことからつながりを持つことは可能である。	・自治会とホウカツとの連携体制は構築されている。本人が地域とのつながりを求めている場合でも、自宅の修繕等ささいなことからつながりを持つことは可能である。 ・江北保健センターとホウカツで自宅を訪問し、状況把握を行う。

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
		増加する孤立死に地域がどのように対策していけるか～見守りネットワークの構築～	①ひきこもり・孤立 ②サービス拒否 ③認知症 ④介護予防	団地内で個人的な付き合いがなく、孤立している人へのサポートや関わり方		掲示板やチラシは見落とされるので、住民同士の声かけをしていく。		集会所を有効活用できていない。地域住民が困ったことを言い合えるつながりを構築していくにはどうしたらよいか。		・月に1度の通いの場「いちょうの会」を活用し、住民同士が集まる時に、一人ひとりが気になる人に働きかけをして、顔見知りを増やしていく。 ・団地住民に限定せず、近隣住民の誰が来てもOKにして集まる場にしていく。 ・ホウカツと連携した地域事業を活用し地域住民に働きかけ、孤立予防を図っていく。	・「いちょうの会」が長く続くよう、ホウカツも継続支援を行う。 ・ホウカツと連携した地域事業を活用し地域住民に働きかけ、孤立予防を図っていく。
20	はなはた	「地域で防ぐ消費者被害」～地域で防ぐために必要な「気付きの目」とは～	①認知症 ②ひきこもり・孤立	・認知機能の低下があっても、住み慣れた地域での生活を継続するために必要な見守り機能を作る。 ・消費者被害を自己防衛できるよう、独居高齢者が認知機能の低下を定期的にチェックする機会を持てる制度の提言	・多職種連携の中で被害の数字を広めていく ・特定検診で内科検診だけでなく、早期から認知機能の低下をチェックでき、自分を知ることができるような仕組みづくりを検討	検討内容を持ち帰り、町内で広めていく。	・地域で活躍している業者や団体に「ながら見守り」や「あんしん協力機関」の登録を案内し、地域の見守り機能をもってもらう提案をする。 ・ケアマネジャー等の福祉関係者へ9月開催予定の「地域ケアネットワーク研修」を通じて、「ながら見守り」を周知し、見守り機能を持ってもらう。 ・多職種連携の中で被害の数字を広めていく ・特定検診で内科検診だけでなく、早期から認知機能の低下をチェックでき、自分を知ることができるような仕組みづくりを検討	・地域の知り合い、自宅に定期的に来てくれる友人がいることで被害を未然に防ぐことが出来ている事実の共有 ・孤立傾向の独居高齢者への見守り支援策		・町会のネットワークで被害を防げる可能性がある。町会への加入の促しと「ながら見守り」の周知。 ・「あんしん連絡会」での「ながら見守り」の周知	・地域で活躍している業者や団体に見守り機能をもってもらう提案をする。 ・ケアマネジャー等の福祉関係者へ9月開催予定の「地域ケアネットワーク研修」を通じて、「ながら見守り」を周知し、見守り機能を持ってもらう。 ・「あんしん連絡会」での「ながら見守り」の周知
		社会になじめない疾患を抱える高齢者が施設を頼らず在宅生活を送るために必要な視点とは	①認知症 ②精神疾患(疑念) ③近隣トラブル ④金銭管理	認知症と精神疾患のご本人が地域とトラブルなく過ごせるためのアプローチ方法について。			・精神科デイケア以外の介護サービスを、家族以外から勧める ・本人の病気をよく行く店に伝えるための診断書や伝え方の検討	・認知症の周辺症状を地域住民が理解し、地域で見守りの目を増やす ・8050(ひきこもり)に対し家庭内の事は相談しづらい認識風潮がある。		本人がよく行く店などの店員向けに、認知症サポーター養成講座を行う	
		孤立しがちな介護者が認知症の人と適切に向き合うために支援者が必要な視点とは	①認知症 ②高齢者施設	家族と利用者が適切な距離感で関わられるよう、支援者はどのような視点が必要か。			(ケアマネ) ・ヘルパー介入拒否であれば、訪問リハビリ等で自宅内に支援者が入ることへの抵抗感を下げられたかもしれない。	孤立しがちな介護者を支えるために、あるとよい社会資源について			・ケアマネやサービス事業所といった介護者に近い支援者が、介護者にアドバイスできる場があると良い。 ・介護者の日常的な活動の場(友人たちとの交流や美容院など)で介護の相談ができると良い。

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ハウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
21	一ツ家	介護サービスに拒否的な独居の認知症高齢者が、生活の質を高めて暮らすための地域づくりに必要な視点とは(事例提供にご家族が拒否されたため架空事例を使用)	①認知症 ②近隣トラブル ③サービス拒否	入浴拒否だけでなく、通院拒否で薬も切れてしまったことについて。				・ハウカツで紹介している人の情報を町会も共有できないか。 ・民生委員の訪問するため、名簿が廃止されているため、地域の心配な人の情報がない。		・本人同意がなければ町会への情報共有はできないが、町会の実態調査に関してハウカツもできる限り協力し、特に訪問拒否の人へフォローを行っていく。 ・孤立ゼロプロジェクトやわがまちの孤立ゼロプロジェクトを活用して地域で見守りのネットワークをつくる。	・本人同意がなければ町会への情報共有はできないが、町会の実態調査に関してハウカツもできる限り協力し、特に訪問拒否の人へフォローを行っていく。 ・孤立ゼロプロジェクトやわがまちの孤立ゼロプロジェクトを活用して地域で見守りのネットワークをつくる。
		近隣住民とうまく関係を築けない身寄りなし高齢者でも、安心して在宅生活を送るための支援とは	①精神疾患(疑念) ②近隣トラブル ③認知症	・在宅復帰後、生活リズムの乱れや服薬管理不十分から再び迷惑行為に至る可能性がある ・夜間に体調不良を相談できる相手がいない			困った時の相談相手を本人が認識できるようにする	・精神疾患のある方の通所サービスで送迎を行う事業所が限定的 ・南花畑4丁目に住民や企業主体の通いの場がない		自主グループやふれあいサロンの担い手となりえる住民や企業を探す	・送迎を行う事業所の情報収集 ・自主グループやふれあいサロンの担い手となりえる住民や企業を探す
		判断や手続きに支援が必要な身寄りなし高齢者の外出や手続きを、どのように地域でサポートするか	①金銭管理 ②ひきこもり・孤立 ③介護予防	・肺気腫などで息苦しさがあるため運動や外出に消極的になっており、手続きをハウカツやケアマネに依頼がち。 ・転居後の都営住宅で相談相手がいない。		・自治会で行うふれあいサロン(第4木曜)に参加し、相談できる人間関係を作る。 ・自治会から誘ってもらおう声かけ依頼。	・自治会で行うふれあいサロン(第4木曜)に参加し、相談できる人間関係を作る。 ・自治会から誘ってもらおう声かけ依頼。	・電動カートを利用しても、バス停や店先に駐車できるスペースがない。 ・駅やバス停まで歩けない人はタクシーしか移動手段なく、経済的に利用できない人が多い。	バス停や店先に駐車できるスペースを作る	・バス停や店先に駐車できるスペースを作る。 ・有償ボランティアによる車の移動支援のしくみを検討する。 ・議論の入り口としてあんしん連絡会で関係者の意見を集める。 ・損害保険のしくみや保険料を負担の在り方を検討する。	・有償ボランティアによる車の移動支援のしくみを検討する。 ・議論の入り口としてあんしん連絡会で関係者の意見を集める。 ・損害保険のしくみや保険料を負担の在り方を検討する。
		呼吸器疾患により活動が自宅内に制限されている高齢者が、本人らしい生活を続け、活動の範囲を広げるための支援とは	①ひきこもり ②生活困窮 ③介護予防	・間質性肺炎により体力を使うが十分に食事がとれていないため低栄養 ・ACPを意識した聞き取り				・独居男性の低栄養 ・医療保険と介護保険の適用関係に関する理解が十分でない訪問看護ステーションが2年前から増えている。	・医療介護連携ネットワークにて訪問介護サービスに関する勉強会を開催し、居宅介護支援事業所や訪看ステーションとともに制度を学ぶ場を持つ。 ・講師として足立区介護保険課に相談。	・住民同士と一緒に食事、交流する場があり、誘い合うことができるとよい。 ・子ども食堂を定期的に開催している地域もあり、そこに高齢者を招くとよいのではないか。 ・医療介護連携ネットワークにて訪問介護サービスに関する勉強会を開催し、居宅介護支援事業所や訪看ステーションとともに制度を学ぶ場を持つ。 ・講師として足立区介護保険課に相談。	・住民同士と一緒に食事、交流する場があり、誘い合うことができるとよい。 ・子ども食堂を定期的に開催している地域もあり、そこに高齢者を招くとよいのではないか。 ・医療介護連携ネットワークにて訪問介護サービスに関する勉強会を開催し、居宅介護支援事業所や訪看ステーションとともに制度を学ぶ場を持つ。 ・講師として足立区介護保険課に相談。

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
22	日の出	地域で心配な高齢者の見守りを地域全体で考える	①サービス拒否 ②認知症 ③ひきこもり・孤立 ④老老介護	・支援に繋がらない ・医療に繋がらない		日々、地域住民を含め見守りを行い、普段と違う状態の時に包括が状況を確認し、支援・医療に繋がれるように声掛けをしていく。	日々、地域住民を含め見守りを行い、普段と違う状態の時に包括が状況を確認し、支援・医療に繋がれるように声掛けをしていく。	・地域の見守りの限界 ・高齢者の把握 ・民生委員の情報収集 ・認知症の理解		・地域住民には声掛け等で見守りをお願いし、身体面・精神面で普段と違うと感じた場合はホウカツ等の機関へ相談をする。 ・孤立ゼロプロジェクトでの訪問や、互いに心配な方の情報を共有する事で見守りのネットワークを構築していく。 ・民生委員が高齢者の把握が難しくなっている。一度エリアの民生委員の意見を交換し対策を検討したい。 ・今後住民に対して認知症の啓発を行っていく。	・地域住民には声掛け等で見守りをお願いし、身体面・精神面で普段と違うと感じた場合はホウカツ等の機関へ相談をする。 ・孤立ゼロプロジェクトでの訪問や、互いに心配な方の情報を共有する事で見守りのネットワークを構築していく。 ・民生委員が高齢者の把握が難しくなっている。一度エリアの民生委員の意見を交換し対策を検討したい。 ・今後住民に対して認知症の啓発を行っていく。
		7月に地域全体で検討した心配な高齢者の見守りのその後について	①サービス拒否 ②認知症 ③ひきこもり・孤立	・拒否無く支援につながる ・認知症による問題行動		他人の郵便物を確認する行為や、火の取り扱い、自宅に戻れない等の認知症による行動について、住民が気付いた場合は関係者へ報告をする。	・介護保険サービスを利用し始めたばかりのため、利用が継続できるよう、ケアマネジャーを中心に支援していく。 ・他人の郵便物を確認する行為や、火の取り扱い、自宅に戻れない等の認知症による行動について、住民が気付いた場合は関係者へ報告をする。	・地域の見守り ・高齢者の把握 ・民生委員の情報収集 ・認知症の理解		・自治会による体操教室を開始。月2回開催することで、参加者の状況を把握することができる。 ・今後、共食の活動についても開始を検討している。 ・集会室を開放することで住民が集まることのできる場を提供した。	・民生委員による高齢者の把握が難しくなっているため、民生委員の意見交換を検討していきたい。 ・今後も住民に対して認知症の啓発を継続していく。
23	保木間	孤立高齢者の消費者被害	①金銭管理 ②認知症 ③ひきこもり・孤立 ④ゴミ屋敷	・老後の人生設計の支援 ・独居高齢者の孤立防止	必要な正しい情報の提供	本人のストレングスに着目し、地域交流の場で本人に役割を与える	・じぶんノートを活用する ・必要な正しい情報の提供 ・本人のストレングスに着目し、地域交流の場で本人に役割を与える	・詐欺が入りにくい環境作り ・見守りの継続 ・住民の啓発	消費者センターチラシ・ポスター等を活用した注意喚起の掲示	・消費者センターチラシ・ポスター等を活用した注意喚起の掲示 ・気になる高齢者が地域に居たら、ホウカツや自治体に報告する ・消費者センターによる出前講座等を活用する	・消費者センターチラシ・ポスター等を活用した注意喚起の掲示 ・消費者センターによる出前講座等を活用する

令和7年度 地域ケア会議実施報告 全25ホウカツ 計43事例

NO.	主催 包括	テーマ/内容	課題	個別 課題	対策・支援策			地域 課題	対策・支援策		
					区	地域	包括		区	地域	包括
24	本木関原	認知症が疑われ、正確な判断が難しく生活、金銭管理に支障が生じている高齢独居男性の支援について	①金銭管理 ②精神疾患(疑含) ③認知症 ④ひきこもり・孤立 ⑤サービス拒否 ⑥その他(身寄りなし)	・適切な金銭管理 ・緊急時の判断や連絡体制の確認 ・認知症の精査や受診が必要		体調変化時は訪問診療が対応	・複数での現金の自宅での金庫管理 ・後見制度の利用の検討 ・体調変化時は訪問診療が対応 ・認知症専門医による精査・診察・治療が受けられるよう支援する。 ・通院や付き添いなど必要なサービス調整。	・新栄会による金銭管理を受けるまでの待機期間が長期化している。 ・民生委員や町会による見守りは対象リストへの記載や個人情報の観点から行えないケースがある。	・単独ではなくケアマネやホウカツ職員など関係者複数で対応し、永続的ではないことを前提に支援していく。 ・福祉事務所との情報や見守りの必要性の共有。本人・家族とも地域との関りを確認し見守り方法を検討する。	福祉事務所との情報や見守りの必要性の共有。本人・家族とも地域との関りを確認し見守り方法を検討する。	・単独ではなくケアマネやホウカツ職員など関係者複数で対応し、永続的ではないことを前提に支援していく。 ・福祉事務所との情報や見守りの必要性の共有。本人・家族とも地域との関りを確認し見守り方法を検討する。
		被害妄想があり認知症が疑われる聴覚障がい者の独居高齢女性の支援の検討	①認知症 ②精神疾患(疑含) ③近隣トラブル ④ひきこもり・孤立 ⑤金銭管理 ⑥サービス拒否 ⑦その他(家族の関わり拒否)	・もの忘れや被害妄想も出て、金銭管理が難しくなっている。 ・筆談でのコミュニケーションが時間かかり難しい。 ・本人の気分で意向が変わりやすい。 ・デフケアに電車賃を気にして通所できていない。	成年後見制度等の公的制度の利用を検討する。	・本人の言っていることは否定せず、傾聴する。 ・落ち着いた時にサービス等の手続き支援していく。	・成年後見制度等の公的制度の利用を検討する。 ・必要な場面で手話通訳の活用を検討する。 ・本人の言っていることは否定せず、傾聴する。 ・落ち着いた時にサービス等の手続き支援していく。 ・シルバーパスの手続きや利用を支援する。	・近所トラブルから孤立している。 ・障がいのある方を孤立させないための見守り方法	銭湯に行くなど行動力があるため、地域の銭湯やスーパーにあんしん協力機関になってもらう等協力を仰ぐ。 ⇒「足立区ながら見守り」の普及啓発	・町会でも共有して遠隔での見守り、あいさつ程度の声かけ。何かあれば民生委員やホウカツに連絡してもらう。 ・銭湯に行くなど行動力があるため、地域の銭湯やスーパーにあんしん協力機関になってもらう等、協力を仰ぐ。 ⇒「足立区ながら見守り」の普及啓発	銭湯に行くなど行動力があるため、地域の銭湯やスーパーにあんしん協力機関になってもらう等協力を仰ぐ。 ⇒「足立区ながら見守り」の普及啓発
25	六月	独居高齢者の自立支援と社会参加～地域包括ケアシステムの点検！社会資源の確認と創出～	①介護予防 ②生活困窮 ③ひきこもり・孤立 ④その他(身寄りなし)	・地域との交流が少ない ・自宅での活動低下		・住区センター、保健センターの通いの場を案内 ・オンラインを活用した自宅でできる活動の提案	・住区センター、保健センターの通いの場を案内 ・オンラインを活用した自宅でできる活動の提案	・中重度期の社会資源開発 ・要支援、要介護期における居場所や通いの場の創出	・絆のあんしん連絡会で社会資源創出に向けて検討会を実施 ・介護認定者の通いの場等の検討	・絆のあんしん連絡会で社会資源創出に向けて検討会を実施 ・介護認定者の通いの場等の検討	・絆のあんしん連絡会で社会資源創出に向けて検討会を実施 ・介護認定者の通いの場等の検討
		認知症高齢者の住み替え、転居の対応と転居後の生活支援	①認知症 ②ペット ③ひきこもり・孤立 ④アルコール ⑤生活困窮 ⑥近隣トラブル	(転居の支援) ・書類の準備 ・説明会への参加 ・引っ越し費用の捻出 ・環境変化 ・引っ越し業者選定と対応 ・ライフライン手続き ・転居前の家にある残置物の処分 ・ペット保護	・社協の貸し付けを提案 ・福祉まるごと相談課の周知	・ライフラインの手続き支援をしてくれる引っ越し業者の情報提供 ・買取業者の活用	・ライフラインの手続き支援をしてくれる引っ越し業者の情報提供 ・パブリック事務所の弁護士へ相談 ・買取業者の活用 ・動物愛護団体へ引き取り依頼	転居先で顔見知りの関係が無くなり、新たなコミュニティの創出が困難			JKKが転居先の部屋を決める時に、近隣まるごと同じフロアにする等、選定方法の見直しがあるとよい等の意見を伝達する。(部屋割りを決める際、抽選方式以外の方法があるとよい)